

家庭教育通信

1年生になったら 10

第70号 令和2年1月11日発行

「自ら学ぶ子を育てるために」 親のかかわり方のポイント

小学生になったら自分から進んで勉強する子になってほしいと、親はみな思います。
今回は、そんな願いを支える「親のかかわり方のポイント」を考えてみましょう。

やる気を育てる＝ほめる

自ら学ぶという行動を起こすのは、こどもの内面に「やってみようかな?」「できるようになりたい!」などの「意欲」が湧くことが出発点です。

見えない、そのエネルギーが、やる気の源（みなもと）です。

人間は誰も、けなされれば、やる気は萎みますね。小さな意欲の芽こそ、大事にしましょう。

そのためには、機を見て「ほめる」ことが大切です。

「それ、おもしろそうだね」「すごいことやってるね」「かっこいい」「さすが」等、大人として、ほめ言葉のバリエーションを蓄えたいものです。

これは、お子さんの「今」をよく見つめる姿勢にも、つながります。

失敗は成功の基＝励ます

こどもが何かうまくできなかった時、失敗した時「だから言ったでしょ」や「どうしてわからないの?」は禁句です。

親は、そう言いたい気持ちをぐっと押さえて深呼吸、「失敗は成功の基」と、自分の心に言い聞かせましょう。

そして、次はきつとうまくいくよと励ますことによって、こどものがっかり感を救いましょう。

これは、出来事を前向きにとらえて自ら立ち直る力（自己肯定感・回復力）を育てることにも、つながります。

新しい方向を示す＝広げる

ここまでの「ほめる、励ます」は意識すればできますが、「広げる」は意外と難しいものです。

こどもが学ぶ姿をよく見て、ちょっとした新鮮なヒントを繰り出す「水先案内人」のような親の存在は、こどもにとって素晴らしい人生のお手本となるでしょう。

自ら学ぶという旅に踏み出すこどもに対して、おもしろくて不思議な未知の世界への手がかりを示し、学ぶ営みに希望を灯す大人でありたいものですね。

地域教育課社会教育担当
TEL (3647) 9676